

## 測 定 委 員 会

日本医学物理学会 会長 殿

平成 23 (2011) 年度の活動につき、下記の通り報告します。

報告者氏名 委員長 齋藤秀敏

委員 委員長◎ 副委員長○ 顧問コ	齋藤秀敏◎, 福村明史○, 浅田恭生, 荒木不次男, 川村慎二, 草野陽介, 熊崎祐, 佐方周防, 櫻井良憲, 田中隆宏, 遠山尚紀, 西臺武弘, 羽生裕二, 森下雄一郎, 山田崇裕 担当理事：小口宏												
今年度課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 一次線量標準機関（産総研計量標準総合センター，以下 NMIJ）および二次線量標準機関（医用原子力技術研究振興財団，以下 ANTM）の水吸収線量標準確立への協力</li> <li>2 水吸収線量校正定数供給に対応した外部放射線における水吸収線量標準計測法の発刊</li> <li>3 <math>^{125}\text{I}</math> および <math>^{192}\text{Ir}</math> 小線源の空気カーマ標準による電離箱校正システム確立への協力と標準計測法の検討</li> <li>4 診断領域線量標準、線量計測プロトコルに関する関係学会との協力と連携</li> <li>5 その他</li> </ol>												
委員会開催 履歴	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">本委員会</td> <td style="width: 20%;">9月28日</td> <td style="width: 50%;">於：九州大学 出席 10名</td> </tr> <tr> <td>標準計測法執筆委員会</td> <td>8月8日, 8月30日, 9月13日, 10月24日,</td> <td>(以上首都大学東京秋葉原キャンパス) 11月5日 (首都大学東京荒川キャンパス)</td> </tr> <tr> <td>小線源小委員会</td> <td>2月24日</td> <td>於：アイソトープ協会</td> </tr> <tr> <td>ANTM 会議への出席</td> <td>6月7日, 6月24日, 10月27日, 11月14日</td> <td>於：虎ノ門 ANTM 財団</td> </tr> </table>	本委員会	9月28日	於：九州大学 出席 10名	標準計測法執筆委員会	8月8日, 8月30日, 9月13日, 10月24日,	(以上首都大学東京秋葉原キャンパス) 11月5日 (首都大学東京荒川キャンパス)	小線源小委員会	2月24日	於：アイソトープ協会	ANTM 会議への出席	6月7日, 6月24日, 10月27日, 11月14日	於：虎ノ門 ANTM 財団
本委員会	9月28日	於：九州大学 出席 10名											
標準計測法執筆委員会	8月8日, 8月30日, 9月13日, 10月24日,	(以上首都大学東京秋葉原キャンパス) 11月5日 (首都大学東京荒川キャンパス)											
小線源小委員会	2月24日	於：アイソトープ協会											
ANTM 会議への出席	6月7日, 6月24日, 10月27日, 11月14日	於：虎ノ門 ANTM 財団											
総括	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「外部放射線治療における水吸収線量の標準計測法（標準計測法 12）」の 2012 年 9 月発行を目途として、編集作業を進めた。（課題 2 関連）</li> <li>2 水吸収線量標準と水吸収線量のトレーサビリティに関して、二次線量標準機関である医用原子力技術研究振興財団との連携を進めた。（課題 1 関連）</li> <li>3 コバルト校正定数から水吸収線量校正定数に線量計校正方法が移行した場合の、ユーザ施設の水吸収線量評価の変動について検討した。（課題 1, 2 関連）</li> <li>4 <math>^{192}\text{Ir}</math> および <math>^{125}\text{I}</math> 小線源の投与線量の確かさ向上を目的として、ウェル形電離箱線量計の空気カーマ校正を要望するため、産総研、アイソトープ協会、医用原子力技術研究振興財団および小委員会で会議を開催した。（課題 3 関連）</li> <li>5 「外部放射線治療における水吸収線量計測法について」を委員長名で医用原子力技術研究振興財団線量校正センターニュースに寄稿した。（前項 1, 2 関連）</li> </ol>												